

「北海道の色彩ポイントブック」 - 北海道および積雪寒冷地の道路施設の 色彩検討の手引き -



北海道および積雪寒冷地の道路施設の色彩検討の手引き
北海道の色彩ポイントブック



主な提案

① こげ茶(ダークブラウン)は北海道の環境に必ずしも適しない。

北海道の広大で開放的な景観、冬の雪景色を考慮すると(右枠外も参照)、道路まわりの構造物は空や雪などの明るい背景を背にして眺められるケースが少なくありません。そのようなケースでは、こげ茶のような暗い色は背景から際だって見えます。また、冬の無彩色の雪景色の中では、こげ茶でさえ鮮やかさを感じる色となります。



ダークブラウンの標識柱が開放的な景観を損ねている事例。より太いはずの電柱よりも目立つ。



色彩シミュレーション。左の垂鉛めっき仕上げ(実物)よりも、右のこげ茶系の色彩(フォトモンタージュ)のほうが、照明柱や防護柵が目立って見える。

② 景観3色では無彩色のダークグレーが優位。場合によっては亜鉛めっきも。

冬の雪景色(無彩色の景色)において目立たず、景観に融和するのは無彩色であり、景観3色の中ではダークグレーが唯一となります。無彩色であれば夏の鮮やかさを取り戻した環境にも問題なく融和するほか、右記の塗装の損傷による問題も緩和されます。したがって北海道の道路では、ダークブラウンよりもダークグレーを優先して検討するべきと言えます。また、明るめの無彩色が適合する環境では、亜鉛めっき仕上げも選択肢になります。



ダークグレー 10YR3/0.2 (景観3色/4色) 照明柱; 国道230号 定山溪

③ 緑系のグレーという選択肢。

空や雪、遠景の山並みなど、北海道において背景となる要素には、青みよりの色彩のものが多くなります。このことを考えると、北海道の環境には、赤みよりの茶系などの色彩よりも、青や緑よりの色彩が適合すると考えられます。実際に、緑系のグレー(彩度1.0程度)が採用された優れた事例が道内で複数確認できています。



緑みのグレー(美笛グリーン) 5G4/0.8程度 高欄; 国道453号



青緑みのグレー 5BG5/1 照明柱; 旭川市 北彩都地区クリスタル橋

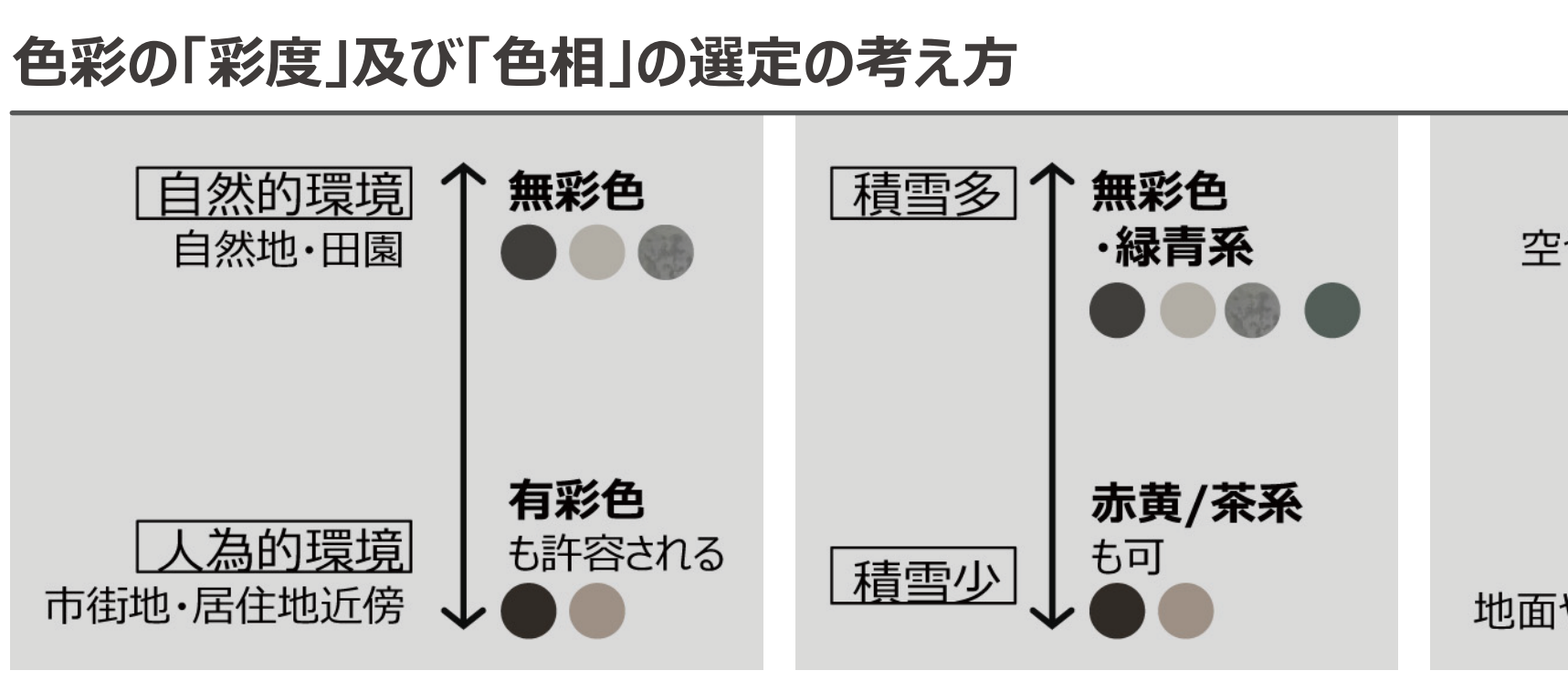
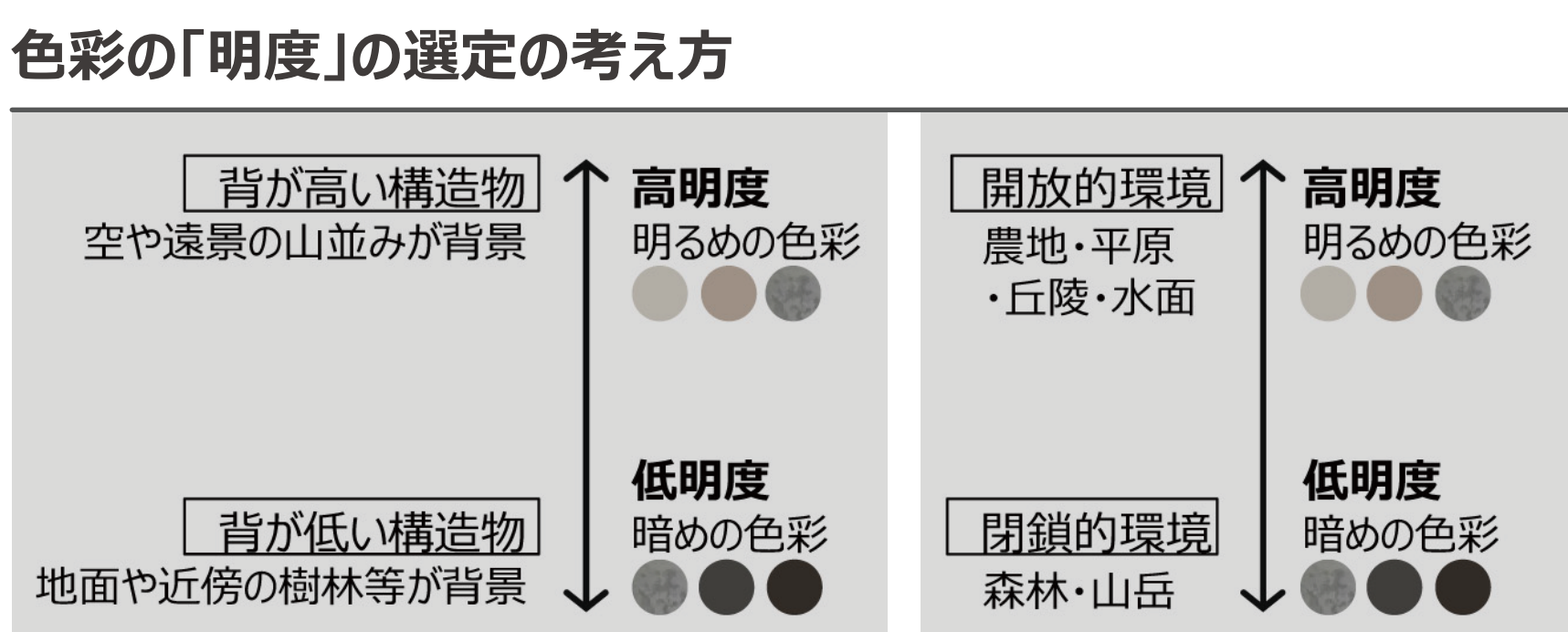


暗い黄緑みのグレー 5GY3/1 照明柱・標識柱; 道道140号 愛別町東町

色彩選定の考え方と景域分類別の推奨色

北海道の道路環境および景観に融和する色彩選定の考え方

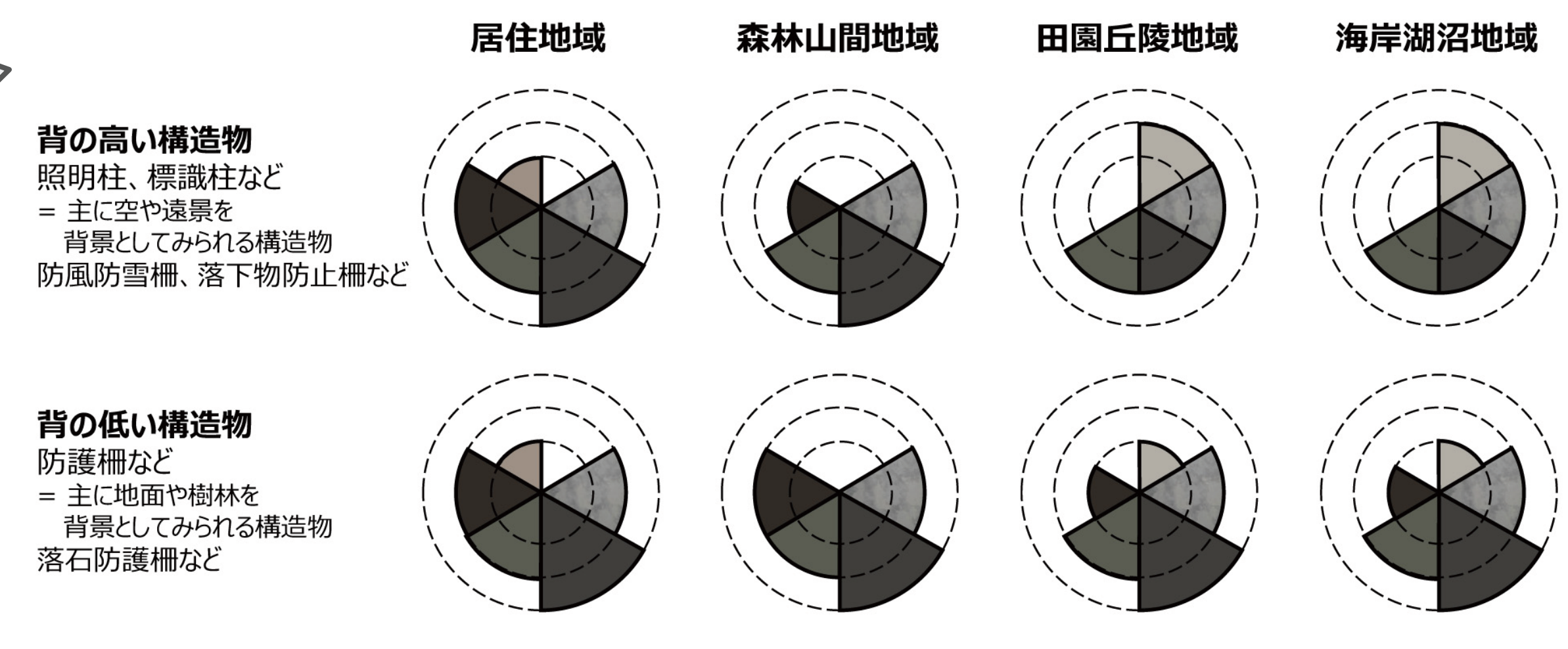
>> 道路まわりの道路附属物等について、北海道の道路環境に融和する色彩を適切に選定するにあたり、色の3要素(明度・彩度・色相)をどのように検討すべきかの考え方を取りまとめ。



北海道における平均的な道路環境を想定した場合の景域分類別の推奨色

>> 北海道における平均的な道路環境を想定し、4つの景域分類別に、どのような色彩を優先的に検討すべきかを整理。

景域分類別 色彩選定チャート ver.1 (参考)



>> ここでは、
・全国版ガイドラインの景観3色
・本書で提案の緑系グレー
・亜鉛めっき仕上げ
の6色を対象とした。

本書の活用方法

- 北海道の道路環境・景観は、本州以南と比較して特異であり、色彩の選定にあたっては独自の考え方で取り組む必要があります。
- 特に、慣例等を根拠とした安易なこげ茶(ダークブラウン)の採用は避けるべきことと考えます。
- 多くの現場で、本ポイントブックで整理した考え方をもとに適切な色彩が検討され、採用されるようになることを期待しています。